

副島種臣

そえじまたねおみ

世界が認めめた正義の外務卿。その「書」に見るフリーマン精神。



Soejima Taneomi

《人物像》

- 当代随一の学識と高い人望
- 人に推される実力ある人
- 芸術的才能を開花させた人

人を取りこにする人柄と学識

佐賀藩士枝吉南濠の二男として佐賀城下鬼丸町に生まれる。国学者である父と兄・枝吉神陽の影響により、早くから尊王攘夷思想に目覚める。7歳で藩校弘道館に入学。出来の良い兄と弟に挟まれ、劣等感に悩む日々だったが、一念発起し21歳で弘道館主席を務めるまでになる。

32の時、父南濠が亡くなると同藩の副島利忠の養子となる。兄の「義祭同盟」にも参加、1867年には大政奉還を勧めるために大隈重信と脱藩するが、捕えられて謹慎処分を受ける。

明治政府では参与・制度取調局判事となり、1869年に参議、1871年に外務卿を歴任。明治5年のマリア・ルス号事件で「正義の人」として一躍国内外で脚光を浴びるようになる。翌年には台湾の宮古島島民遭難事件の処理交渉のために清を訪れ、清朝高官との詩文交換でその博学ぶりも評価され、信頼を一層深めた。同年、征韓論争に敗れて下野。自宅を売り払い、中国大陸を旅行し見識を深める。後に明治天皇の待講を務め、天皇からも寵愛された。

西南戦争で敗れた西郷隆盛が日本の未来を託す遺言状の宛先に副島を選んだことからわかるように、幕末維新～明治初期の多くの英傑から全幅の信頼を受ける学識と人柄であった。

書家としても多くの作品を残し、その独創的な書は今も尚多くの人を魅了。同じく佐賀出身の書聖、中林梧竹と共に近代書の源流と言われている。

【概略年表】

年	年齢	出来事
1828	文政11年 1	10月17日、佐賀藩士枝吉南濠の二男として生まれる
1848	嘉永元年 21	弘道館内寮生の首班となる
1852	嘉永5年 25	京都に留学して、皇学を研究、「日本一君論」を書く
1859	安政6年 32	佐賀藩士副島和忠の養子となり、副島二郎種臣と名乗る
1865	慶応元年 38	長崎の「致遠館」において、フルベッキより英学を学ぶ
1867	慶応3年 40	大隈重信とともに脱藩して上京、「大政奉還」を説く
1868	明治元年 41	新政府にて参与となり、制度取調局判事に任ぜられる
1869	明治2年 42	参議に任ぜられ、西郷隆盛とともに東北諸藩の処置
1871	明治4年 44	樺太の国境問題について露国領事と談判／外務卿となる
1872	明治5年 45	マリア・ルス号事件
1873	明治6年 46	清国におもむき「日清修好条約」の批准を交換、清国皇帝に謁見
1874	明治7年 47	板垣退助、江藤新平らと愛国公党を設立、民撰議院設立建白書提出
1876	明治9年 49	霞ヶ関の自宅を売り、清国歴遊の旅に出る
1879	明治12年 52	宮内庁御用掛一等侍講に任ぜられる
1891	明治24年 64	枢密院副議長に任ぜられる
1892	明治25年 65	3月、内務大臣に任ぜられるも6月辞任／再び枢密顧問官に
1905	明治38年 78	1月31日、死去

あなたにとって副島種臣とは？

書に現れる、その人格

佐賀県教育連盟 元会長／書家
米倉 基峰 さん



佐賀では政治家として有名ですが、近代書の先駆者としても大きな功績を残した人なんです。その書は独走的で胆大心小、質実剛健・曲った事が嫌いな本人の人間性がよく出ています。また、漢詩、漢文に達者で、中国でも雄渾絶画の趣きと賞賛され、外交にも大きな役割を果たしました。とにかく政治家としても書家としても、良いと思った事は徹底的にやりぬく、そんな人でした。もっと地元佐賀の人にも副島種臣、そして書家「蒼海」の素晴らしさを知って欲しいですね。

副島種臣を知る入門の一冊

「蒼海 副島種臣 全心の書展 図録」

没後100周年を記念して開催された書道展の図録。副島の書を中心に名品140点を収録。署名、印、年譜なども付載した副島種臣書の基礎資料となる一冊。
佐賀県立美術館 編／佐賀新聞社 刊
2500円(税込)



▲明治5年、マリア・ルス号事件を担当していた頃の副島の肖像

人間としての法に従った正義の人

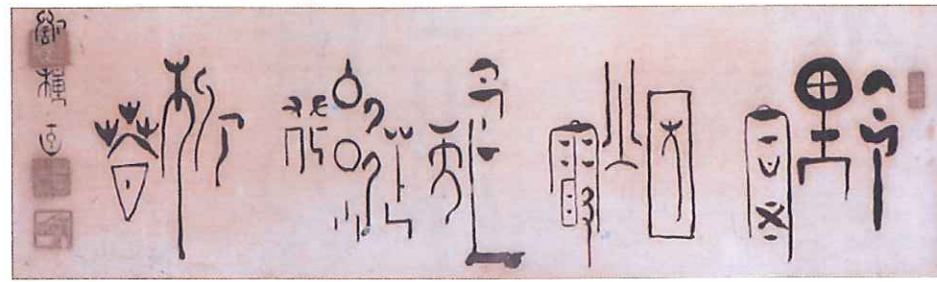
副島を語る上で外せないのがマリア・ルス号事件。明治5年(1872)に横浜港に停泊中のペルー船マリア・ルス号内で奴隷的扱いを受けていた清国人231人を解放した事件で、日本初の国際裁判だった。船の中は治外法権であり、国際問題になる事を恐れ、周りが不干渉を決め込む中、外務卿の副島は断固としてこれを訴え、勝利を勝ち取った。この事件を機に、副島は「正義の人」として国際的にも広く知られるようになった。

これぞ芸術家気質？ 天下の無精者

藩校弘道館での寄宿舎生活時代の話、朝起きると皆は裏の松原川で顔を洗うことになっていたが、副島は二本の指を濡らして、目の縁を擦っただけで済ませていた。また、副島が養子に入った佐賀市西与賀町の今津周辺では、子供がいかげんな風呂の入り方をするのを「次郎さん(副島の通称)の風呂入り」といったそうである。彼の豊かな髭もその証か。



▲「掃雲飛雨」(佐賀県立美術館蔵) リズミカルに丸を重ねるように筆を走らせた、躍動感あふれる自由な書



▲「春日其四句」 幾何学的パターンを連ねた書は絵画にも似る。読みは「野は烟霞(えんか)の色に富み、天は花柳の春を横(ほしいま)にす」。

書道デザイナー 独創的すぎる書

副島は「蒼海」の名で多くの書を残しており、その作品は書道界に大きな衝撃を与えた。作風は誰にも似ず、独創性にあふれ、文字というよりむしろ絵画のように見える。書道雑誌も蒼海特集すれば良く売れ、展覧会の図録も売り切れてしまうほど。ちなみに「佐賀新聞」の題字も副島の作。



▲「富士山詠頌」(佐賀県立美術館蔵) 副島は息子道正から「心配」で通した一生と言われ、日本の国の将来を憂いた。「ひと津可の石をそこぞく可き根學そ代爾多くひなき多可根とはなる種臣写并題 于時壬辰八月」

自由なる精神 天皇にも愛された人柄

副島は明治天皇に学問を講じる和漢洋の書を講じる「待講」という職についていた。しかし周りのやっかみもあり、副島が辞職しようとした時、まだ続けて欲しいと天皇直筆の手紙を賜り、思いどまったことがあった。また副島の貧乏暮らしを見かねた天皇がお金を送った時には「名君は万人に平等であらねば」とこれを辞退。その男気あふれる高潔な人柄が愛されていた。



▲若き日の副島(左端)と大隈重信(右隣)と思われる写真(大隈記念館蔵)

副島種臣足跡探訪コース【約2時間】(移動約75分+観光散策約45分)

モデルコース 佐賀市街に残る、副島の軌跡と書の作品を訪ね歩く



副島種臣生誕地

地図▶P35 G-9

佐賀城南堀沿いにあった枝吉家の屋敷跡。現在は社会福祉会館の駐車場で、その石碑の揮毫(きごう)も見事。

① 佐賀県佐賀市鬼丸町7-18 ② 佐賀市観光振興課☎0952-40-7110



佐賀県立美術館

地図▶P35 G-8

「蒼海」の名で残した多くの書の作品が収蔵され、常設展示も数点。展示会なども企画されるので、まずは電話確認を。

③ 佐賀市城内1-15-23 ④ 9:30~18:00 ⑤ 月曜(祝日の場合は翌日)、年末 ⑥ 無料(企画展は除く) ⑦ ☎0952-24-3947



弘道館跡

地図▶P35 G-8

藩校弘道館跡。裏手には松原川が流れ、寄宿舎時代に多くの仲間と共に過ごした生活が想像されて楽しい。

⑧ 佐賀市松原2-5-22(徳古館横) ⑨ 佐賀市観光振興課☎0952-40-7110



與賀神社(与賀神社)

地図▶P35 G-8

副島の「神降百福」の直筆が社務所に、木額が本殿の拝殿正面に掲げられ、いつもで気軽に副島の書を探める穴場。

⑩ 佐賀市与賀町2-50 ⑪ ☎0952-23-6091



高伝寺

地図▶P35 F-9

鍋島家、龍造寺家の菩提寺で、兄枝吉神陽の遺徳碑と並んで副島のお墓が建てられて、二人を同時にお参りができる。

⑫ 佐賀市本庄町大字本庄1112-1 ⑬ 8:00~18:00 ⑭ 300円 ⑮ ☎0952-23-6486

はみだし情報 副島は当時の外国領事たちに「信頼できる第一級の人物と評価が高かった」とそれは、日本が選んだ国だからという理由ならなく、主権を主張すべきはいつかという。日本の国のあり方を示しながらも尊敬を勝ち得た事例が多い。